フリクションヘッド　　クレセント

取扱説明書

SHOTOKU CORP.

安全上のご注意 （必ずお守り下さい）

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をした時に生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

⚠警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性又は物質的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただきたい内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。
（下記絵表示は一例です。）

	この様な絵表示は、気を付けていただきたい「注意喚起」内容です。
	この様な絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	この様な絵表示は、必ず実行していただきたい「強制」内容です。

⚠警告

チルト動作を行う時は、ノブ、ツマミ等各操作ツマミ以外には手を触れないで下さい。指などを挟んでけがをすることがあります。

⚠注意

〈１１〉チルトロックは、必ず搭載物が水平付近を向いた状態でかけること。
ピン及び基台部が破損する恐れがあります。

搭載物を取り付けた後は必ず安全確認装置を左に倒せることを確認すること。
Ｖアタッチメントに正確に取り付いていないと、搭載物の落下事故の原因となります。

三脚もしくはペデスタルに取り付けた状態で、搭載物の乗せ換えを行う時、もしくは、中継車の格納庫で移送する時などは、必ず〈１１〉チルトロック、〈5〉パンブレーキレバー、〈6〉チルトブレーキレバーを作動させてください。

ペデスタルもしくは三脚などに取り付ける時は、ヘッド取り付け面に取り付けてあるキーを相手キー溝に必ず合わせてから、ウィングナットで締め付けること。フラットボトムで取り付ける時は４本のネジをしっかりとしめること。
撮像画面が傾いたり、不意に動いたりして安定した撮像が行えなくなります。

目次

１．概要　・・・１

２．仕様　・・・１

３．操作概略図と名称　・・・２

４．各部の名称と機能　・・・３

５．カメラ、レンズの取り付け、取り外し時の注意　・・・４

６．クレセントのセッティング　・・・５

　１）クレセント各種三脚、及びペデスタルに取り付ける　・・・５

　２）カメラ・レンズの取り付け　・・・５

　３）前後バランス調整　・・・８

　４）重心バランス調整　・・・９

　５）カメラ・レンズの取り外し　・・・９

７．保守　・・・１０

８．故障　・・・１０

１．概要

クレセントはテレビカメラを搭載し、スタジオ内、屋外での撮像に使用する物である。

２．仕様

（１）高さ×幅×長さ	255×330×339mm
（２）自重	20.0 kg
（３）最大搭載重量	90.0 kg
（４）前後バランス調整ストローク	前方：50mm　（max） 後方：80mm　（max）
（５）チルト角度	±60 ° （カメラ重心が極端に高い時や低い時は ±50 °となります。）
（７）付属品	フラットボトム仕様 パン棒　　ＴＪ－３７Ｓ Ｖオス　　ＴＡ－７４Ｇ
（８）オプション	Ｌパン棒　　ＴＪ－１４Ｂ ショートパン棒　　ＴＪ－１５Ｂ 水準器照明ライト ミッチェルマウント アタッチメント　　ＴＡ－１０１

3．装置概略図と名称

注）本取説は、照明スイッチを搭載していないタイプで撮影した為、場所のみ示します。

４．各部の名称と機能

〈1〉 プラットホーム → 搭載物をのせる〈2〉スライドプレートを組み込んだ部分です。

〈2〉 スライドプレート → 搭載物の重心位置の前後バランスをとる為に、前後に動かすプレートです。

〈3〉 前後バランス調整ノブ → 〈2〉スライドプレートを前後に動かすための調整用ノブです。

〈4〉 前後バランスロックレバ → 〈2〉スライドプレートの前後調整を行った後、ロックをかける為のレバーです。

〈5〉 パンブレーキレバー → このレバーを下に押すことにより、パン動作にブレーキをかけることができます。

〈6〉チルトブレーキレバー → このレバーを下に押すことにより、チルト動作にブレーキをかけることができます。

〈7〉水準器 → 三脚等に搭載する時に、雲台の水平調節を行う時に使用します。

〈8〉水準器照明スイッチ → 夜間等に暗くて水準器が見えない時に本スイッチを押すと、一定の時間、照明がつくようになっています。（オプション）

〈9〉パンフリクション調整ノブ→ 時計方向に廻すと微調力が強くなり、反時計方向に廻すと弱くなります。

〈１０〉チルトフリクション調整ノブ→ 〈9〉と同様です。

〈１１〉チルトロック → 水平位置で本ツマミを押し込むとチルト動作にロックをかけることができます。

〈１２〉チルトロック解除ボタン→ 本ボタンを押すと、ロックを解除します。

〈１３〉重心バランス調整ノブ → このノブを廻すことにより、搭載物の重心バランス（高さ方向）を調整します。

〈１４〉菊座 → パン棒を取り付ける場所です。

〈１５〉ベース → 運搬時には、この部分を持つようにしてください。

５．カメラ・レンズの取り付け、取り外し時の注意

本作業を行う時は必ず〈１１〉チルトロックを作動させ、〈5〉パンブレーキレバー〈6〉チルトブレーキレバーを下に押し、両ブレーキを作動させた後に行ってください。また、クレセントを持ち運ぶ時は〈１５〉ベース付近を持つようにしてください。

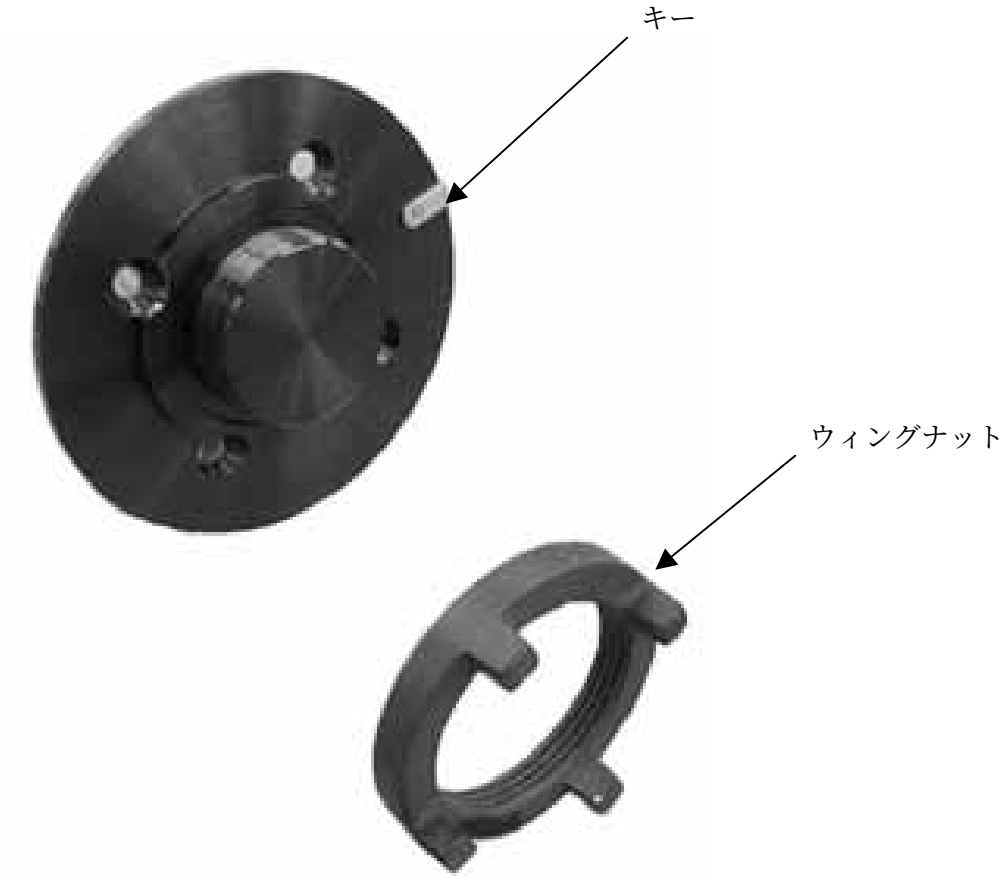
6．クレセントのセッティング

1）　クレセントを各種三脚及びペデスタルに取り付ける。

①〈１１〉チルトロック、〈5〉パンブレーキレバー、〈6〉チルトブレーキレバーをそれぞれ作動させる。

② フラットボトム仕様の場合は、取り付ける相手に対し、４本のビスでしっかりと締め付けて固定する。

③　ミッチェルマウント仕様の場合は、底面にあるキーを相手キー溝に正しく入るように、向きを合わせてから取り付ける。最後にウィングナットでしっかりと締め付ける。



⚠ 注意

キーが相手キー溝に正しく入っていないと、雲台が傾いて取り付き、しっかり固定できない可能性があるので、正しく合わせて下さい。

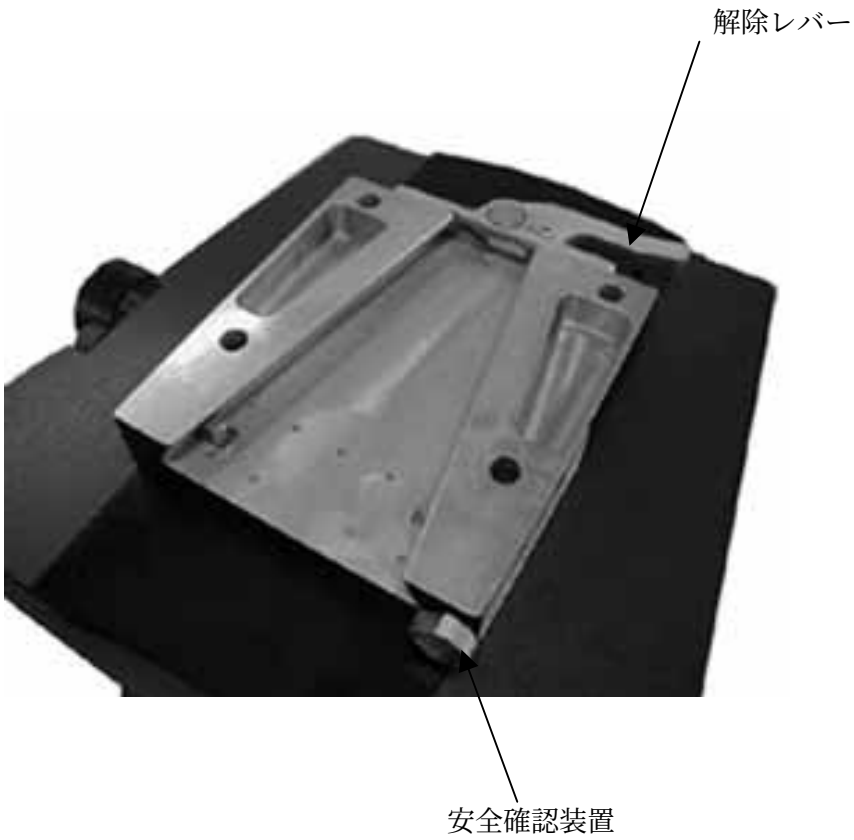
2）　カメラ・レンズの取り付け

①〈１１〉チルトロック、〈5〉パンブレーキレバー、〈6〉チルトブレーキレバーを作動させる。

②〈2〉スライドプレート上に取り付いている各種アタッチメントに、カメラ・レンズを装着する。

③　パン棒を取り付ける。

（1）　アタッチメントが 弊社 ＴＡ－１０１の場合



ａ）　安全確認装置が右側に倒れていることを確認する。

ｂ）　取り付け時にカチッという音を確認すること。

ｃ）　取り付け後、安全確認装置を左側へ倒す。

⚠ 注意

安全確認装置が左側に倒せない場合は、アタッチメントに正しく取り付いていない状態を示します。これは落下事故の原因となるので、必ず確認して下さい。

④　まず〈5〉パンブレーキ、〈6〉チルトブレーキを解除する。〈１２〉チルトロック解除ボタンを押す時には、必ずパン棒をもった状態で行うこと。

⚠ 注意

〈１２〉チルトロック解除ボタンを解除する時は、まだバランス調整が行われていない状態なので、何も持たないで解除すると一気に搭載物が倒れ込んでしまう危険性があるので、必ずパン棒を持って行って下さい。

⚠ 注意

アンバランスな状況であると、〈１２〉チルトロック解除ボタンを押しにくい可能性もあるので、その時はパン棒を持って、搭載物が水平となるように力を加えてやると、〈１２〉チルトロック解除ボタンはスムーズに押すことができます。

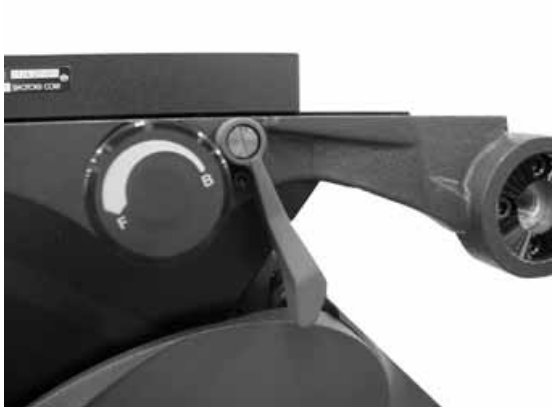
3）前後バランス調整

① 前後バランス調整は、パン棒をしっかり持った状態で行うこと。

② 〈１０〉チルトフリクション調整ノブは、最弱となるように調整しておく。（反時計方向に一杯まで廻しておく）

③ チルト角０°（水平）の位置で、パン棒を持つ力を弱めて、搭載物が前後どちらの方向に倒れようとするかを観る。

④ 〈4〉前後バランスロックレバーを解除する。



ロックレバー解除時

ロックレバー作動時

⑤ 〈3〉前後バランス調整ノブを廻して〈2〉スライドプレートで倒れようとする反対の方向へ移動させる。

注）〈2〉スライドプレートをカメラマン側（後方）に移動させる時は、チルトアップにして、レンズ側（前方）に移動させる時は、チルトダウンをして行うと、容易に動かすことができます。

⑥ パン棒に力を加えなくても水平付近で停止するようになれば、前後バランス調整は完了したので、〈4〉前後バランスロックレバーを作動させる。

4） 重心バランス調整

① 重心バランス調整も前後バランス調整同様にパン棒を持った状態で行うこと。

② 次に搭載物を３０°位傾けた時に、どちらの方向に動こうとするかを観る。

ａ）もっと傾こうとする場合
〈１３〉重心バランス調整ノブを反時計方向に廻す。
ｂ）停止している場合
バランス調整は不要です。

ｃ）水平に戻ろうとする場合
〈１３〉重心がバランス調整ノブを時計方向に廻す。

③ 反対方向にも傾けてみて、動きを確認する。どの角度でも停止すれば、バランス調整は完了です。

注） 〈１３〉バランス調整ノブを廻す時は、搭載物をほぼ水平位置に保持した状態で行うと、比較的楽に廻すことができます。

5） カメラ・レンズの取り外し

① 〈１１〉チルトロック、〈5〉パンブレーキレバー、〈6〉チルトブレーキレバーを作動させる。

② 〈2〉スライドプレート上に取り付いている各種アタッチメントよりカメラ・レンズを取り外す。

（1）アタッチメントが 弊社 ＴＡ－１０１の場合

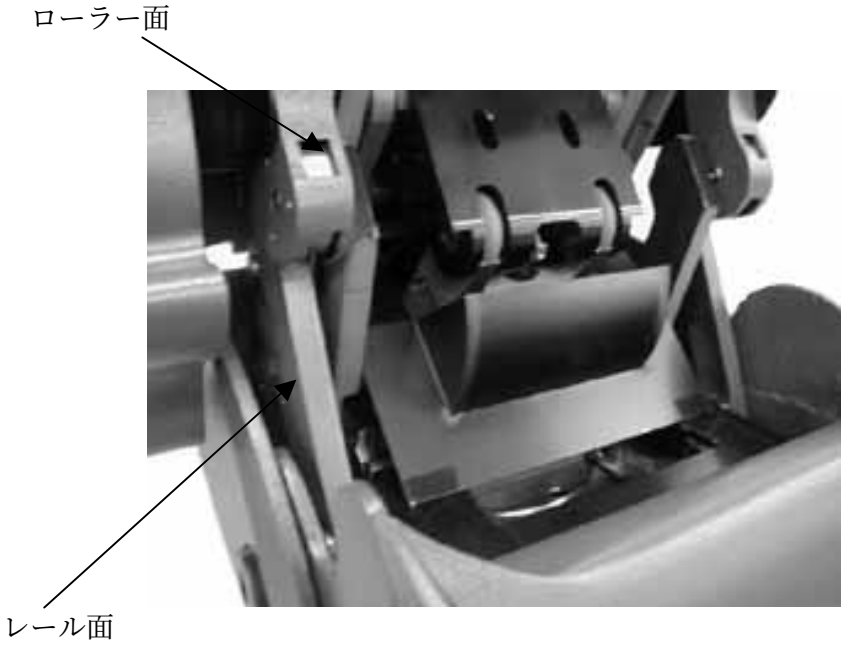
ａ 安全確認装置を右側へ倒す。

ｂ 解除レバーを引き起こし、ＶオスをＶアタッチメントより取り外す。

注） 危険な作業なので、２人以上で声をかけ合いながら行うこと。

7．保守

本機は特にメンテナンスを必要としませんが、３～６ヶ月に一回程度、下記の項目について、保守して頂ければ、より永くご愛用いただけます。



（1） ①レール面、②ローラー表面を少量のオイルを含ませた布で掃除する。

8．故障

下記のような状態を発見された場合には、故障と思われますので、速やかにご連絡ください。

1） パン、チルト時に異常な手応えがある。
2） パン、チルトのブレーキが極端に効かなくなった。
3） パン、チルトのフリクションが極端に効かなくなった。
4） 各レバー類の動きが悪くなった。